



「地域親和型アート」で現代版祭り

長野県の最南端にあるのが阿南町だ。愛知県に接するとともに、中央アルプスと南アルプスに挟まれたまさに秘境である。山は深く、交通も不便だけに古い文化が残つてもいる。愛知県の東栄町や豊根村等とともに阿南町も昔ながらの古い祭りが残されており、阿南町を南北に走る国道一五二号線は「祭り街道」とも呼ばれる▼阿南町の新野は、民俗学者の折口信夫が足しげく通つたところで、盆踊りや雪祭りは国重要無形民俗文化財に指定されている。八月の中旬に行われる盆踊りは、太鼓も三味線も使わず、音頭取りの歌に合わせて唱和しながら踊るもので、三晩も夜を徹して踊られるという。雪祭りも田楽・神楽・猿楽・田遊びなど芸能の原型が繰り広げられ、やはり三晩にわたって明け方まで行われるらしい▼筆者が新野を訪れたのは瑞光院という曹洞宗の立派なお寺で開かれた「新野だら—お寺で楽しむ新野の物語」を見るためであった。友人が何回か新野に足を運んで着想を得て創作した物語に、その友達が影絵をつけた『月祭りの夜』、そして長野市の劇団Theater Romによる演劇『おおばあちゃんの七人塚』が行われた。上演された二本のコンセプトは「地域親和型アート」と表現され、あくまでその土地に素材を探り、これを展開していこうとするものだ。折口信夫の手法の現代版ともいえ、若者のセンスが光る▼五〇人程度の集まりと思っていたところが、一二〇人もの観客であふれかえり、普段はひと気の少ない新野には熱気が充満していた。

(土着菌)